

ひょっこりひょうたん塾通信

# Tatsutto

vol.4



発行日 2015年8月20日

発行 特定非営利活動法人つどい

web サイトでも、通信が見られます。

HP <http://www.hyotanjuku.jp/>

FB <https://www.facebook.com/hyoutanjyuku>

撮影場所 / 吉里吉里海岸

表紙モデル / 三浦裕也

この冊子は「平成27年度 岩手県復興支援の担い手の運営力強化実践事業」の助成金によって作成されています。



Tatutto なひと  
かねざき わたる  
**金崎 亘さん (25)**  
株式会社山口建設 勤務

いつか伝統工法で  
自分の家を建ててみたい



Tatutto なひと  
おおすが のりしげ  
**大砂賀宣成さん (39)**  
Ape Trek

カヤックを通じて  
この土地で生きる豊かさを  
伝えたい

**憧れの大工への道**

「関東でサラリーマンをしていたとき、満員電車で揺られて出勤して最終電車で帰るとか、このままでいいのかわか？ 続けるのか？」

高校を卒業して関東に出ていた金崎さんはそう疑問に思ったそうです。システム関係の職場で高給でしたが、金崎さんには高校の頃からやりたいと思っていて仕事があったのです。「大工」でした。

お母さんの実家が建材屋さんで、建築に関する現場を見て憧れをもっていたと言います。関東での仕事を辞め、一時仙台で働き、大槌に帰ってきたのが20歳ころのとき。帰ってきて土木関係の仕事に就き、その後初めて工場の中で働き、「ものづくりの仕事は体を動かして淡々と働ける、面白い」と感じたそうです。

その間も、大工の仕事がしたくてあてを探していました。一緒に郷土芸能(城山虎舞)をやっている知人が山口建設に勤めていたことで道が開けました。

現在は、新築する家屋の造作などを主に任されています。

「大工の仕事はとても奥が深



株式会社 山口建設  
〒028-1131  
大槌町大槌第13地割5-1  
TEL 0193-42-6005

(文 駒林 奈穂子)

**震災後から始めたカヤック**

「吉里吉里の海では、子どもの頃から泳いだりもぐったり父が転勤族だったので、お盆に帰ってきては海で遊んでいました」

成人してからは吉里吉里には住んだことがなかったという大砂賀さん。震災前は山登りはしていましたが、シーカヤックなどマリンスポーツはしたことがなかったそうです。震災後、吉里吉里に戻り、被災した自宅跡地に cafe & bar Ape を開設、町内外の方々の情報共有の場、憩いの場となっていました。

そんな中、2012年に知人から「山田でシーカヤック体験があるから行ってみよう」と誘われ、そこで「ハマっちゃん(笑) 誰かシーカヤックを教えてください！」と釜石にあるカヤック専門店 MESA の草山雅之さんより指導を受けました。カヤックの歴史には諸説あり、狩猟生活に使われるなど生活に密着したものであったようです。腰まですっぽりおさまるその形態は極寒の海でも使用されていたようです。

カヤックに魅せられた大砂賀



Ape Trek  
staff@ape-kirikiri.com

シーカヤック専門店 MESA  
〒026-0022  
岩手県釜石市大只越町1-1  
青葉公園商店街 A棟 203  
TEL/FAX 0193-22-7005

(文 駒林 奈穂子)

さんは「これは皆とやっていきたくない」と感じ、レスキューやロール(カヤックで転覆したときに自力で起き上がる方法)などの指導を受け、吉里吉里の海を案内し始めてから2年ほど経ちます。

**「豊か」ということは何か**

「ここにいるから出来る、地元の人でも遊びとして取り入れられる、そんな魅力があります。昔から海の乗り物としてあったもの、生活の一部が海にあるんです。僕が一番興味があるのが、そこにどんな営みがあって、文化があつて、その延長線上にどんな遊びがあるかということ」

吉里吉里海岸から右手に見える弁天様のある海岸は「崎山弁天遺跡」があり、土器も発掘されています。三陸にある花や岩、海の中の生物などを知ること出来ませう。

「先人たちがなぜこの土地を選んだのか。昔は山にも海にも仕事があり、それは人間の本来の目的、本来の生き方じゃないかな」カヤックで沖に出てみると人工の建物が見えないところがいいと言います。

「カヤックを通じてこの土地ってどういうところか気づく、っていうのがあるといいですね。遊びもだけれど日常の中で気づく。この土地で生きる豊かさ、というのかな。僕は、安心してご飯を食べられて、子どもが育っていけばそれで十分」

お話を伺っているうちに吉里吉里の海は夜への幕を静かに開け始めていました。



暑い夏の日に仲間と吉里吉里漁港に集合する。インストラクターに従ってそれぞれ色鮮やかなシーカヤックに乗り込み目的地を目指す。この日の海は穏やかで初心者でもパドルを漕いでどんどん前へ進む。20分も過ぎると出発地点が見えないほど遠ざかる。一面エメラルドグリーンの海と白い砂浜のビーチの美しさに感動する。普段車で遠くから見える海とはまた違った美しさだ。

狭い岸壁の合間を進み1時間ほどで目的地のビーチに到着する。野島を目の前にした隠れ家の

ようなスポットだ。カヤックを

漕いで汗ばんだ体に海からの冷たい風が気持ちいい。

この日のお楽しみは、眺めのいいビーチでコーヒーを淹れること。豆をミルで挽いてお湯を沸かし、一滴一滴丁寧にドリッブする。



文・Mikitty 写真・Coba

海で美味しいコーヒーを仲間と飲む。そんな贅沢な時間を過ごす。そしてそんな海に良く似合うパエリアを潮風と共に味わうひととき…  
遠くまで車で出かけて行かなくても、大槌に遊べる自然がたくさんある。そして自然の中で仲間とゆっくり時間を過ごすことを楽しむ人たちがいる。次に行きたいところ、やってみたいことはまだまだある。



## 全国のTatsuro な取り組み フィッシャーマン・ジャパン



宮城・三陸の若きフィッシャーマンたちが、地域や業種の枠を超え、東北から日本全土へ、そして世界に向けて、次世代へと続く未来の水産業の形を提案していく最強のチームを結成。「カッコよくて(K)、稼げる(K) フィッシャーマンと

なり、革新的な(K) 水産業を目指す。」新たな3Kの仕事として未来の世代が憧れる水産業の形を提示していきます。

宮城県石巻市大街道西1-7-20

[www.fishermanjapan.com](http://www.fishermanjapan.com)

## Tatsuro / たつとんな人

自分のスキルを磨きチャレンジを続けていく人(達人)率先して動き、考え、最後までやりとげる人(立人)地域や周りの魅力や可能性を引き出していく人(発人)「たつとん…」彼らのエッセンスがまちに浸透していくことでしょう。

今回は、夏の太陽のような思いと自分のスキルを發揮できる場面を創ることで、前向きな力が自然とあふれ出ているTatsuroな2人に出会いました。

事務局 元持幸子

※たつとん＝大槌の方言 水滴が滴り落ちる様子を表す擬音語